

## 技報発刊に寄せて

名古屋大学工学研究科・工学部技術部は、工学研究科・工学部からの要請に基づき、全学技術センター工学系技術支援室から派遣・配置された技術職員の派遣先部局における組織「工学研究科・工学部技術部」として、主たる業務先である工学研究科・工学部のみならず全学の教員各位のご理解と連携により教育・研究における支援業務を精力的に行っています。

この「技報」は、工学研究科・工学部技術部の平成 25 年度における諸活動をまとめたものであり、部局内外の教員並びに関係する皆様に技術部の活動内容を発信するものです。ご高覧いただき忌憚のないご意見を頂ければ幸いです。

技術部では、平成 25 年度を含む 6 年間で 20 名の技術職員が定年退職を迎えます。組織としての若返りが進み、新規採用職員の育成が急務となっており、技術を継承していくための研修のあり方が、益々重要であると実感しています。これまで、教育・研究支援業務に関する工夫や改良など、培ってきた技術を継承するための講習会や講座等の研修を企画・実施してきましたが、実りある研修となっているか疑問に感じています。研修のあり方に関して、これまでも幾度となく議論しており、明快な答えは得られていません。しかし、技術職員各々が、誰のための研修であるのか、何のために行うのかを明確に意識して行えば、成果の上がる研修となるのではないかと思います。また、最近の技術研究会でも成果の上がった発表が多いように感じています。私は、長年装置開発をしてきましたが、成功したことより失敗した事を多く覚えています。失敗にこそ学ぶべきことがあるはずであり、何事も失敗を恐れず、積極的に行うよう意識改革が必要であると思います。今後も、スムーズな技術の継承を行うため、これまで以上に研修や研鑽を組織的に進め、技術力の向上に努めてまいる所存です。関係各位のより一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、本誌の発行にあたって、多大なご尽力とご支援を頂きました工学研究科長・副研究科長をはじめ、教員、事務職員、その他の関係各位には心よりお礼申し上げます。

平成 26 年 2 月

工学研究科・工学部 技術部  
(全学技術センター工学系技術支援室)  
室長 熊澤克芳